



Fグループ会報

心をひとつに……

会長 中島恭子（9回）



皆様お元気で御活躍のことと存じます。今年も会報をお届けする時期となりました。

先ず、1月の募金コンサートの折には、皆様に御協力いただきましてありがとうございました。お蔭様で盛会のうちにコンサートを終え、別観の通り三百余万の利益をあげることが出来ました。今回のコンサートに御出演下さいました先生方はじめ、フェリスの教職員の方々、白菊会、りてら、りべるてその他外部の方々からも多数御協力いただきました。このコンサートを通して、フェリスは一つであると云う事を益々強く感じ、フェリスの精神のすばらしさを再認識し、フェリスで学んだ事への感謝の気持で一杯になりました。

次に、5年余り前から計画実行を始めて参りました音楽科の歩み「山手の丘に音楽誕生」が完成致しました。もう既にお読みいただいた方も多く思います。以前、同窓生の間からもこの要望は出ておりましたが、なかなか実現に至りませんでした。三宅洋一郎先生が現職を引かれたのを機に先生にお願い致しまして、先生のお宅をお借りして、各回の代表の方々に十数回お集まりいただき、お話を伺いました。又創立当時の先生方にもお集まりいただき、資料作りをして参りましたが、その資料集めも大変で途中とても心配になった事も再々でしたが、幸いにも、牛山剛さんがこの話に御賛同下さり、執筆をお受け下さった時は、これで本が出来ると確信致しました。その後着々と計画が進み、学校側の協力も得、完成に至った事は大きな喜びであります。この間、大勢の方々の並々ならぬ蔭の力があった事をぜひ皆様に知っていただきたいと思います。

どうぞ、この本を大切に、もう一度私達の学んだ短大音楽科の想い出を胸に読んでいただけたら幸いでございます。未だ読んでいない方々、ぜひ御一読下さいませ。

今年、フェリス女学院は創立120周年を迎えました。その記念行事が行われる予定もございます。どうぞ、今後共、同窓会の発展に、皆様の御協力をよろしくお願い申し上げます。

募金コンサートに参加して

山口ユリ（専門部英文科第1回卒）

「昔は良かった。」「昔は……。」と云うのは年をとった証拠とか。でも、若かった頃コーラスに明け暮れた仲間と、母校のために演奏会に出演するなんて、最高の嬉しさです。そんな喜びと楽しさを与えてくれたのが、募金コンサートでした。殆んどの人が、所属は違ってもコーラスを続けていたこと。又、合唱團創立当時のメンバーが、今回の33名中多くもいたことは立派。但しアンサンブルの難しさ、4回の練習も出席率が悪く、全員揃ったのは当日だけという訳で、これは反省材料の一つ。本番は良かったのでは？ 中田喜直の女声合唱曲が好評だったようです。

全ステージ聞けなかった私の代わりに、卒業生（主に中・高、英文科）の代表的な感想をいくつか。

1. 多彩なプログラムで楽しかった。 1. インタビューコーナーが良かった。 1. 校歌を久しぶりに歌って（あるいは聞いて）感激。 1. 出演者を含めて家族的な雰囲気

募金コンサートについて

大島久子（1回）

一部を終えて二部の初めにコンサートとしては異例のインタビュー・コーナーが設けられて、音楽科の誕生した頃の時代背景や学校の様子・生徒の様子を開学当初の先生だった三宅洋一郎先生、寺西春雄先生、遠山一行先生、山田一雄先生にステージで話して頂き、敗戦後の横浜の焼野原の中で、開学を志された三宅先生のご慧眼を一同再確認しました。倉長治子先生がお風邪を召されてご出席戴けなかった事は、何とも残念な事でした。

ついで器楽のアンサンブルがあり、目頃なかなか接しられない作曲者自身のピアノ演奏による連弾、それに4人の先生方による8手連弾などで会は盛り上がり、その後先程申し上げた合唱が、昔からの方式のオルガンとピアノ伴奏で演奏され、幕を閉じたのです。

それにもしても同窓会総会のようなコンサートながら、募金委員会のメンバーの木目細かな企画、準備、配慮は並大抵ではなかったことでしょう。それに加えて、開学当初の先生方を始め、多くのご多忙な先生方、そして多くの同窓生達の多大な協力によって、あのコンサートは大成功に導かれ、募金という趣旨を理解し、支援して下さった多くの方々のおかげで会は終了しました。

この多くの方々の協力の力、素晴らしいは、長く記憶される事でしょう。そして総合司会をして下さった募金委員長の大庭さん、同窓会長の中島さんと委員の皆様のお骨折りに心から感謝をさせられます。

私はこのコンサートを機に、私共の育ったフェリスにもう一度しっかりと眼を向けて、音楽科が高い理想を掲げて新しく発展していく姿を見守りつつ、それを支えるために、募金活動を地道にでも続けていくうではありませんか。

1990.1.30募金コンサート

会計報告

収入	支出
チケット売上金 3,936,000	会場費 232,743
祝 金 306,000	音楽著作権料 38,620
募金券 364,500	印刷費 388,274
プログラム広告料 600,000	通信費 226,143
チーズ代 20,000	出演者の舞車代 600,000
パーティー出席者会費 31,000	お弁当代 88,000 つり看板代（スマート） 30,900 録音テープ代 80,000 ビデオテープ代 110,000 マネージメント代 150,000 パーティ費用 128,906 会合費用 44,291 運 費 15,373
合 计 5,257,500	合 计 2,133,300

＊出演者より返却された25万円と当日受け分

い愛情の念が、ここに凝縮されたものだった。それと共に、この想いを一層強くしたのは、当日の内容は云うまでもないが、コンサートの主催が、音楽科同窓会であつたにもかかわらず、中高や英文科、家政科等の同窓生の協力が非常に大きかった事だ。それぞれの学年がお互いに誇り合い、まるで、ミニクラス会の様に音楽堂に集まり、共にこの一夜を創り上げてくれたのだった。

いくつにも分かれている同窓会であるが、母校に何かあれば一つにまとまる、フェリス女学院同窓会なのだと、今更ながら強く感じる。

音楽科は去年から4年制になった。が、決して一人歩きせず、多くの先生方や卒業生が、永年築き上げてこられた歴史と伝統を想い、それらを踏み台にして、どんどん伸びて行って欲しい。

「今夜はとっても楽しかったわ。またこの様な音楽会がある時には知らせね。」と云ってくれた友の言葉…「柳の下に泥鰌は2ヒキ居ない。」と人は言うけど、私は、フェリスの泥鰌は、2ヒキも3ヒキも居る…と信じたい。

の会で、フェリスならではと思った。

これらは、募金コンサートの第1回目で、お祝い気分もあって暖かな批評でしたが、今後は企画が大変でしょう。お金集め、人集めは難事業。この会の運営に当った同窓会の役員、募金委員会の皆さんに「御苦労様」とお言お礼を。

ともあれ1月30日。その夜は珍しく暖かでツイテいました。翌朝は一面の銀世界でしたから。こんなこともいい思い出になりました。

★

齊藤令子（11回）

「もろともに、深く睦みて。若き日を、御栄光のわざに捧げむ。」このコンサートは、校歌に始まり、校歌に終った。たとえようもない感動が、会場とステージを包む……。フェリスに学んだ者だけが味わう事が出来る連帯感に酔いしれた一夜だった。

このコンサートの目的は、新しいホールとオルガンの為の募金であったが、私達の気持はむしろ、4年制になつた為に幕を閉じる短大音楽科への、言葉には言い表せな

同窓会総会報告

紫陽花が色づき始めた去る6月10日、今年の下グループ総会が、山手の新しいホールで開催されました。

まず、林佑子先生演奏のパイプオルガンの莊重な調べに包まれ、田中順先生の司会によって、礼拝が執り行われました。讃美歌をパイプオルガンの伴奏で歌いましたが、何十年か前のカイバー記念講堂での讃美歌をなつかしく思い出し、時の流れをつくづく感じました。それに続き、聖書「ビリビ人への手紙」に基いたお話がありました。フェリスの標語は「For others」ですが、これをただ言葉だけと見え、軽々しく使うべきではない。聖書にある本当の意味をよく考え、イエス・キリストを

手本に、常に謙虚な態度で他人のことを考えましょうという意義深いお話をしました。

ビリビ人への手紙 第二章

そこで、あなたがたに、キリストによる勧め、愛の勵まし、御靈の交わり、熱愛とあわれみとが、いくらかでもあるなら、どうか同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、一つ思いになって、わたしの喜びを満たしてほしい。何事も愛派心や虚榮からするのではなく、へりくだった心をもって互いに人と自分よりすぐれた者としなさい。おのれ、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。キリスト・イエスにあっていだいていると同じ思いを、あなたがたの間でも互いに生かしなさい。



礼拝後、中島会長の挨拶に続き、佐藤馨学部長から学

校の説明と、三宅春恵先生、倉長治子先生に名譽教授の称号が贈られたお話を伺いました。

次に、二階に上がりパイプオルガンのそばで、林佑子先生に、パイプオルガンの構造の説明をしていただきました。フェリスのパイプオルガンが、アメリカ人の手に寄る珍しい楽器ということもあって、全国のオルガニストから大変注目を浴びているすばらしい楽器であることも初めて伺いました。質疑応答も交じえ、大変興味深いひとときでした。最後は、先生のすばらしい演奏に耳を傾けました。

その後、場所を地下に移し、軽食をいただきながら、それぞれおしゃべりを楽しみました。その席上「山手の丘に音楽誕生」の執筆にあたった牛山剛さん、編集の安井弘昌さん、挿絵の衛藤良恭先生の御紹介があり、大盛会のうちに総会を終了致しました。



<申し込み多数にうれしい悲鳴> …山手の丘に音楽誕生…

短大音楽科設立より現在に至るまでの苦労話、楽しい思い出が牛山剛氏の筆により再現。

同窓生の皆様ぜひ御一読下さい。お申し込みは郵便局よりどうぞ。

郵便振替番号 横浜5-15800 加入者名 山手の丘に音楽誕生本代

(本代1,800円+送料250円=合計2,050円)

尚、お問い合わせは、土方明美(13回)TEL.

まで

大きな愛につつまれた学生生活

募金委員長 大庭照子(10回)

募金コンサートは、皆様のあたたかいお力添えで無事終える事が出来ました事、心から感謝しております。先生方、そして音楽科を問わず、同窓生の方々がとても喜んで下さいました。この事が一番嬉しく、思いきって実行して良かったと思いました。募金も想像以上の金額が集まりました。急に計画、実行したため、いろいろと御迷惑をおかけした事と思いますが、どうぞお許し下さい。毎日新聞にフェリスの思い出を書きました。御理解いただければ幸いです。

☆

子供の時からの心に秘めていた志を実現させるためにフェリス女学院短大音楽科を目指してふるさと熊本を離れたのは、昭和32年2月だった。戦後は終わった、とは言われていたが、まだまだ社会情勢は厳しく、日本がこんなに豊かになるとは思ってもいなかった。受験することさえ大変な時代だった。私の家は貧しく、受験できるような経済状態ではなかった。しかし、私は毎日のように両親を説得した。両親は私の強引な願いに負けて、家を抵当に入れて受験費を作ってくれた。

そのころ高校の修学旅行は東京だったが、私は受験の

お金がいるということで修学旅行には参加できなかった。だから本当に生まれて初めての旅であり、それもたった一人の旅立ちだった。九州女学院高校の院長先生がフェリス女学院の院長先生宛に書いてくださった紹介状と大きな荷物、そして大事な1万円をおなかにくるんで出発した。フェリスの先生方はあたたかく迎えてくださいました。まだ、そのころ熊本にはテレビが入っていないので、今と違って都会と地方はいろいろな面で格差がある、私にとって生まれて初めてということがいっぱいだった。特に音楽の受験体制は遅れていた。

フェリスの先生方はそんな私を受験の日までの1ヶ月間、それこそ手を取り足を取りご指導くださいました。そしてようやく念願のフェリス女学院短大音楽科声楽科入学することが出来た。フェリスだけを目指した理由は高校の音楽の先生、渡辺晋郎先生のお勧めだった。先生は、フェリスは学生の数も少なく、三宅洋一郎・春恵先生ご夫妻を中心とした素晴らしい先生方による、他の学校にはない心のこもった教育がなされているので、フェリス以外は受験しない方が良いと言われ、私は何の疑問もなくフェリスだけを受験した。

渡辺先生がおっしゃった通り、簡単には説明出来ない先生方の大変な愛につつまれた学生生活を過ごすことが出来た。私は寄宿舎生活だったが、寄宿舎では熱心なクリスチヤンの竹内ふみ先生から、親が見過ぎてしまうようなところまで教育していただいた。そして声楽の個

人レッスンは、その当時もっとも有名なブリマドンナと言っていた三宅春恵先生に師事した。先生は入学した時から、私がプロの道を勧めてくださいました。まだ思うように声の出ない私に日本人には珍しいコントラアルトだから頑張りましょうと夏休みも時間のある限りレッスンをしてくださいました。私も希望に胸をふくらませ、帰省もほとんどせず先生のお宅にレッスンに通った。苦学生の私のために先生はレッスン代もなしで、よくお食事もご馳走してくださった。何もわからない田舎者の私を、美容院に連れて行ってくださいたり、教養を身につけてはいけないと、絵の展覧会や音楽会、そして京都の旅をしながらお寺の見学、というようなことまで考えてくださいました。でもこのようなことは私だけではなく、それぞれの先生方がご自分の生徒にふさわしい教育、アドバイスをされていた。先生方のお力添えで結婚した人もいっぱいいた。私の現在の生き方のボリュームはフェリスで作っていただいたと感じている。三宅先生が考えてくださいたのは、声楽家の道だったが、考える事があって私はボビュラーの世界に入り、またそこも何か違うと感じ、結局は音楽事務所を経営しながら歌手活動をするという独自の道を選んだ。長い道のりを経て今、私は大きな喜びを感じるところまできた。その大きな喜びは、先生方から受けた教育と、フェリスの標語である「他人のために」の基礎があったからだと思う。

音楽学部からのたより

声楽学科主任教授 田 中 順

3年前には、相鉄の緑園都市の駅を降りると、造成された赤土の小高い丘に瀧酒な校舎が青い空に映えてまぶしい様に見えていたのですが、今年はもう、フェリスは何処ですかと人に聞かれる程、付近に林立するビルやマンションに遮られてしまいました。校地内の樹々も並木も毎年成長して、十年後には文字通り緑園都市となりましょう。

音楽学部2年59名、1年62名が文学部1・2年に加わって、千名がぐぐる校門を入ると左側に礼拝堂と音楽学部教室、右側に研究室と事務室、正面に一般教育教室と図書館がつづきます。山手の石段中途にある旧校舎や、短大音楽科の校舎だった5号館のあの古めいた雰囲気に慣れていた私は、美しく清潔で、設備満点の校舎にいまだに馴染まず落ち着かないのは年のせいでしょうか。

礼拝堂は小型のパイプオルガンがあり、毎日の礼拝では音楽が豊かになります。出席した学生はその響きに感銘を受けているようです。音楽学部の教室は、中教室2・レッスン室4・練習室7で、防音、音響とも非常によく、使い易い教室です。図書館は開架式で、全面ガラスの半円型の閲覧室は明るく開放的で、文学部・一般教養の書籍も自由に手にとることが出来ます。中庭に向かっている学生食堂は、昼食時にのぞいて見ると、天井の高い洒落た空間に色とりどりの服装と声々…が溢れて、正に

圧倒されます。ラーメン・スパゲッティ・日替りランチ等、格安で美味しいと聞いていますが、そっとサンドイッチと牛乳を買って講師室に持ち帰って食事するのは又、やはり年のせいでしょうか。

さて冗談はおいて、音楽学部の新しい出発は順調といえましょう。40年の音楽科の歴史の中で、学年たちが少しずつ変って行ったように、時代の子等は、その時々衣を着替ながら変って行くことでしょう。特筆したいことは、一般教育、文学部の先生方と幅広く接することの出来ることと、又、先生方も音楽学部の学生を暖かく注目して下さい、学生達の交流も気楽に自然に行われています。これらはよい成果を期待する所です。1・2年生は4年制になると、専攻科目の上に、一般教育授業や語学授業が想像以上に重くのしかかることになり、苦労しているようですが、今の所殆んど落伍者の声を聞きません。新しいホールが出来て、試験場は自前のホールで出来ることも本当に幸せなことです。

山手の校舎は、ディプロマコースの研究生や合唱講座・リコーダー・器楽アンサンブル・音楽史・音楽理論講座の受講生70名程が行きかい、多少静かですが、来年は又、3年生がやって来ます。

卒業生の方々の暖かいお支えをお願いします。

クラス便り

今年で、同窓会も短大最後の卒業生を迎える、年齢の層も広がり、より一層のお互いの交流が望まれます。今年は、20回と24回の方に、クラス会の様子などを、知らせていただきました。

小林美知(20回)

皆様が若くハツラツとしていた学生生活は、なんといつても楽しい事ばかりでした。そして人生に於いても、最も充実している時であったとも思います。

2年あるいは3年の短い間ではありました、充分に濃縮された、素晴らしいフェリスの教育と精神に、触れさせて頂きました事は、今まさに、何事にも代え難い力となって私達を励ましたし、支えてくれるものとなっております。折りに触れての便りや、電話等で伺えば、学校で学んだ音楽を更に専門的に深めようと職業として進めている方、又様々な方法で、生活の一歩に取り入れて頑張っている方等、皆音楽を捨てずに努力を続けていらっしゃるとの事、本当に素晴らしい事だと思います。

さて、卒業後の事を思い出す時、最初に開かれたクラス会の事が先ず浮かんでまいります。場所は横浜内でございました。何年振りかでお目にかかるたびは学生時代と異って一層洗練された素敵なミスやミセスになっていました。そこにはもう元気の良いお子様の声や笑顔まで交っていたのを覚えています。つきない話は、ついいつ時のたつも忘れさせ、次の再会が早く来る事を約束して、なごりを惜しみ乍ら、和やかな一時を終りました。

その後、2回(駒沢公園)、3回(イギリス館)、4回……と、どの回もどの回もその時の皆様の御幸せな様子が伺えて本当に楽しすぎました。

私達も実年に近づいて色々な経験もし、今まで解らなかった事もボチボチと見える様になって参りました。

これからは、皆様がお互いの中に、お持ちになっていく様々の音楽を持ち寄って、それを通して話し合い、喜びや悲しみを分かち合いたいと思います。それから、学生時代に感激した音楽を、もう一度今の環境でじっくりと味わう機会を持てます事を心から願っております。

今年、母校フェリス短期大学は念願の4年制になる事が出来ました。母校の発展に協力しようと云う皆様からの熱心な御意見等が学校や委員の方に寄せられました。特に私達の担当する募金活動に於いては同期の皆様との連絡の中で諸々の感想を含め、沢山のお話を伺う事が出

来ました。又活動の一環の中で、諸先輩方のお力で募金コンサートも開かれ、そこではなかつた多数の先生方にお目にかかるなり、私達の知らないフェリス音楽科創立当時の話を聞かせて頂いたり、又ホールの中ではフェリスグッズが販売されている等、時の流れを感じると共に、楽しい一夜を過ごす事が出来ました。

最後になりましたが、神戸怡樹美さんのガンバ、松本洋子さんのシャンソン、名古屋では大橋多美子さんの独唱等の様に会を開いて頑張っている方、そして地域で合唱指導などを通して活動を続けている方々のお話を伺うにつけても、同期生の一人として声援を送ると共に私達自身の刺激ともして勉強しなければと思うこの頃でございます。

■

伊藤和子(24回)

私共24回生は、卒業して17年。あっという間に出来事だった様な気もしますし、随分と月日がたった様な気も致します。

総勢70名で入学し、専攻科へ40名という1クラスで成るため、全員がそれぞれの顔と名前を覚えられ、仲も良く、まとまっていたと思います。

卒業又修了時、皆が音楽専攻であったはずですが、現在に至っては、種々様々あります。もちろん大学のピアノ等の講師をしている人を始め、ヤマハ、カワイ等でピアノ等の講師をしている人。自宅等で個人レッスンの先生をしている人もかなりいます。又、中には、アメリカ在住でお茶の師範をする傍で、教会等で歌い活躍している人。又、ヨーロッパ旅行がきっかけで、何とワイン会社を作った人もいます。又、音楽の出版社に勤めていた人。又、そば屋のおかみさんをしている人もいる。遠くは福岡県の秋葉で、あの有名な葛を製造している家に嫁いで、その家業に専念している人もいます。そして、

1990年度 音楽学部演奏会・公開講座

(於 音楽学部 演奏ホール)

5月7日(日)	ハラルド・フォーゲルオルガン公開講座
26日(日)	オリビエ・ミリヤコビッチ声楽公開レッスン
6月23日(土)	田村宏ピアノ公開講座
7月14日(土)	レクチャーリサイタル ソプラノ：藤井典子 オルガン：ルドルフ・イニッヒ
9月28日(土)	チモ・フェーフピアノ公開講座
29日(日)	大宮真琴講演会
10月6日(土)	ライナー・ホフマン声楽公開レッスン
16日(土)	フェリス女学院創立120周年記念式典
20日(土)	石井記念オルガン披露演奏会
21日(日)	
11月1日(木)	学内演奏会
3日(土)	
7日(土)	ハーヴェイ・ダーガル夫妻ピアノ・デュオ 公開講座
12月11日(土)	学内特別演奏
14日(土)	クリスマス・コンサート(予定)
3月	研究生修了試験(公開)(未定)
15日(土)	メサイア演奏会(予定)

※公開講座の聴講料は1,000円
お問い合わせ TEL.045-681-6236

なんといっても歌を忘れたカナリアもいれば、ピアノがほこりにかぶっている人もいるでしょう。でも、まじめにグループで先生を囲み、歌やピアノ等の指導や演奏の勉強に取組み続いている人も少なくありません。「継続は力なり」でこれからも頑張って欲しいものです。

私共24回生は、卒業後3・4年に2回の割でクラス会を開いております。幹事は当番制にして、横浜や東京を中心に行なっております。いつも20名程は集まります。当初は、当然ほとんどが独身で若さも美しさ!も奥ゆかしさもあった筈ですが、会を重ねる毎に学生時代にタイムスリップしてしまい、我を忘れて賑やかに話に花が咲く事!!(そのため、会場はホテルの一室が多くなってきました。)

前回のクラス会の折、いつかは地方に出てしようとか海外でしよう、又、演奏会形式にしよう等いろいろと案が出ていましたが、近い将来に実現して欲しいと願う私もその一人です。

現在、同期の一番上の子供が中学2年生か3年生の頃だと思いますが、その1人目の時と今、3人目4人目を持っているこの時と比べますと、だんだん若さもなくなり力もなくなり、反射神経も鈍くなり何とも情ない限りです。でも逆に、(私の子供は中学1年生と小学3年生の娘達と小学1年生の息子ですが)この年になって、やっと、ゆっくり音楽会等に出かけられる様になりました事は、嬉しい限りです。

次回のクラス会は、平成2年7月15日の予定で幹事さんは動かれている事と思います。学友に会えるのは、とても楽しみです。私は福岡からこのクラス会に日帰りで出かけます。主人は呆れ果てておりますが……でも、時間が足りなくて小走りに歩きますので、いつも足にまめを2・3個おみやげに作って帰宅しております。遠い将来、家庭や子供の心配をせずに、ゆっくりと上京して、夜が明けるまで語りたいものです。

※24回生の田口純子(旧姓二宮)さんが11月1日(土)から草月ホールにてリサイタルをなさいます。お誘い合わせの上どうぞ、いらして下さいませ。

<中部支部>

岡本博子(15回)

春休み半ばの日曜日です。空は一段と晴れ渡り、花の香いいっぱいの春の日です。昨晚までの肌をさすような冷たい風もおさまり、明るい日差しでいつもより暖かい朝を迎えました。今日は発表会です。青く澄みきった空の中に、教会の尖った2つの塔がきらきら輝いています。

教会の中に音楽教室の建物があり、その三階にセシリアホールがあります。9時から調律が始まっています。先生方も集まり、生徒達を整列させたり、舞台にセントボリアの花鉢を飾ったり、ライト、マイク等会場の準備に追われます。いよいよ10時。第8回ジュニアコンサートのスタートです。午前の部は、8名の先生方から34名の出演者。発表会らしい緊張した様子の子供達が、控え席に5人づつ並びます。先生方は、お互いに自分の生徒の様子を気にしながら、他の生徒さんの演奏を真剣に聴いています。素晴らしい生徒には惜しみなく拍手が、又、ミスをしても他の先生方からも「惜しかったネ」等と、慰めの声がかかったり、歓声裏はとても賑やかです。先生方は、この日のための生徒達の努力をなんとか開花して欲しいと願いつつ、会は進んでいきます。午後の部30名も無事、4時半に終了しました。

知らない曲があると本を見せて頂いたり、こういう曲をこんな子にという面白い発見があったり、演奏の後、何年生か尋ねたり……、先生にも生徒にもいつもと違った良い刺激になったのではないでしょうか。

しかし反省する点も多々あります。今年は、例年になく会場が騒々しくて残念でした。最近、名古屋の演奏会でもマナーの悪さが目立っていますが、音楽会でのマナーも続けていかなければ強く感じました。又、つい忙しい先生方の集まりで、会合をなるべく減らしてしまった事が、プログラムにあらわれてしまい、これからは、曲目のバランス等に気をつけて、プログラム作りに時間をかける事にしました。まだまだの出来ですが、何とか8年間毎年続いてきましたこのジュニアコンサート、これからも、皆様の声を大切に頑張りますので、御協力宜しくお願ひいたします。

<西南支部>

牛島博子(19回)

皆様、お元気でいらっしゃいますか。こちら西南支部では、毎年5月に同窓会を催しておりますが、昨年より、「小さな演奏会」と称して、ミニサロン風のスタイルの例会を持っております。

今年は、福岡で一番新しい、ホテル日航において、6月10日に、40名近い同窓生が集まり、演奏を楽しみ、おしゃべりの花がさきました。

今回は、声楽の平井美智代さん(31回)、フルートの福原勝栄さん(37回)、ピアノの熊谷知子(31回)、植木更和子(33回)、熊本真理子(36回)、山田裕子(37回)さん達が演奏して下さいまして、多彩なプログラムで、大変楽しくすごせました。その後、募金コンサートのテーブを聴きまして、なつかしい先生方のお話や演奏に、しばし、新たな感激を味わいました。

この日は、本部の行事等と日程が重なってしまった為に、横浜からは、どなたもおいでいただけず、そちらのニュースが聞けなくて残念でございました。

来年度も、この形式で、同窓会を行なう予定ですので、お若い卒業生の方はもちろん、しばらく演奏なさる機会から遠ざかっていらっしゃる方も、新たに、気軽に参加して演奏して下さいますよう、お願いいたく思っております。又、去る4月19日には、28回卒の大島(ガリンスキー)富士子さんが、ご主人のご縁(九州大学に留学なさって)で、ここ福岡でも、声楽のリサイタルを催されました。その際、西南支部としては、ささやかながら、お手伝いさせていただき、交流の機会を持つことができました。

西南支部は、いつも申し上げております通り、流動的なのですが、ここ数年、お子様の手が離れつつある方が少しづつ増えており、今後はまとまって、新たな活動が出来ればと欲張っております。

なつかしい母校のことを思い、はるか九州より、その発展を常に願い、祈っております。

研修会への誘い

いつまで『バイエル』使っているの? 朝日新聞(昭和63年11月15日)

この大きな見出しを覚えていらっしゃる方も多いでしょう。クラウス・ルンツェ氏は、西ドイツ、ケルン大学で、ピアノ教育のための教授法セミナーを持たれています。今回5度目の来日です。

前回フェリスで、「ふたつの手・12のキー」という教則本を用いての公開講座がありました。この本は、ルンツェ氏の10余年にわたる子供達とのレッスンの中から生まれたもので、レッスンの中で子供達が描いた絵が音楽のイメージと弾き方を示すユニークなものです。

ルンツェ氏の言葉をいくつか挙げてみましょう。

「音楽をするには、まずイメージがあることが大切です。何を弾きたいのか、という内面の欲求がなければ、音楽にはならないのです。」

「心を傾けて聴く、耳を傾けて聴くことが、音楽体験となるのです。」

「私たち教える立場にある人が、内面的自由さを持っていかなければなりません。」

「子供は特に想像力、全身の動きで、ひびき、運動、距離の感覚を体得し、ピアノに向かえるのです。」

一台のピアノから、さまざまな音が、イメージがわき上って来るような楽しい講座でした。動物になったり、波になったり、カッコーになったり、ピアノの88鍵全てを使って、ピアノと仲良しになった気がします。

百聞は、一見にしかず、です。是非ルンツェ氏自身の指導法をご自分の目と耳で体験してみませんか。

同窓会連絡会

同窓会連絡会主催のクリスマス礼拝が、昨年より開始されました。多数の同窓生が集い、思い出深いものとなりました。本年度は下記の通りです。

皆様お説明の上御参加下さいますようお願い申し上げます。

フェリス女学院同窓会

クリスマス礼拝

日 時 12月15日(土) 午後3時

会 場 フェリス女学院大学音楽学部ホール(山手校舎)

説 教 ノールデン先生

1990年度 会計報告 (1990年3月末現在)

収 入	支 出
前年度積余金 13,503,380	ジョイントリサイタル開催費 518,917
ジョイントリサイタル料代 362,000	会場賃借費 399,263
サロンコンサート(3回) 203,500	施設使用料 234,400
研修会料(ルンツェ先生2回分) 150,000	研修会料(ルンツェ先生2回分) 234,464
研修会料(大島久美子先生2回分) 124,000	研修会料(大島久美子先生2回分) 199,981
研修会チケット販売料 10,000	サロンコンサート(4回分) 312,827
会員シャツ代(既大より) 14,860	施設会場運営費 100,000
富士銀行振込 201,261	封筒用紙代 84,510
積み出し行頭 13,285	制服年替用紙代 70,000
	西南支那会会員登録費 61,500
	西南支那会会員登録料 50,000
	中部支那会会員登録料 50,000
	カード代 25,000
	事務用品・消耗品 18,580
	郵便料(海賃) 813
	諸費用 69,990
合 計 14,584,414	合 計 2236,798
	次年度積余金 12,367,616

役員紹介

会 長 中島 恵子(9回)	副 会 長 熊取谷 寿子(16回)	会 計 藤村 公子(11回)	書 記 熊取谷 寿子(16回)	会 報 三宅 洋子(18回)	当番幹事 土方 明美(13回)
副 会 長 永川 恵子(25回)	執行委員 永井 晴子(15回)	会 場 堀内 陽子(31回)	人 数 金田 淑子(36回)	会 場 田中 薫(25回)	申込み締切 永田 裕子(36回)
執行委員 栗原 明子(15回)	今井 久美子(27回)	会 場 金田 淑子(36回)	人 数 金田 淑子(36回)	会 場 金田 淑子(36回)	申込み締切 1990年11月20日
会 場 今井 久美子(27回)	会 場 金田 淑子(36回)	会 場 金田 淑子(36回)	会 場 金田 淑子(36回)	会 場 金田 淑子(36回)	尚、出演者はFグループ会員で先生の推薦のある方に限ります。希望者多数の場合は書類選考させていただきます。

—今年度「Fグループ研修会」

のお知らせ—

・クラウス・ルンツェ先生の「新しいピアノの導入法」のお話。

日 時 '90. 9月22日(土)・26日(日)

—Fグループ後援演奏会—

'90. 3月18日(日) "Amies"

関内小ホール

安藤江浪、藤田直子他7名(32回)

'90. 3月29日(日) 三宅春恵リサイタル

県民小ホール

'90. 5月1日(日) 大島富士子リーダーアーベント(28回)

OAGホール

'90. 5月20日(日) "Clochette-1"

大倉山記念館

V. 井田芳子(37回)

F.I. 石井朝美(37回)

P. 那須直子(37回)

P. 日野智子(34回)

'90. 5月31日(日) 大島君子ピアノリサイタル(3回)

"シーベルトアーベント"

サントリーノホール

'90. 7月12日(日) ピエール&倫子モンティ(22回)

"フルートとピアノデュオリサイタル"

カザルスホール

'90. 11月1日(日) 田口純子リサイタル(24回)

草月ホール

'90. 11月21日(日) 齋藤京子リサイタル(34回)

駒場エミナース

後援の申し込みは、執行委員・栗原明子(15回)TEL.

までお願いします。ただし・年1回・3ヶ月前迄・役員会で承認したもののみといたします。

—「サロンコンサート」のお知らせ—

第12回 '89. 11月14日(日)

F.I. 石井 朝美(37回)

V.c. 田内 恵美(39回)

P. 齋藤真理恵(34回)

第13回 '90. 1月18日(日)

V. 尾崎 美樹(34回)

P. 長谷川友子(34回)

第14回 '90. 9月27日(日)

P. 今藤当麻子(31回)

第15回 '90. 11月22日(日) 予定

Fグループ主催で、卒業生の皆様に演奏の場を持つていただけるように、という主旨で行っています。

是非お申し込み下さい。先生方も、ご推奨下さい。

ヤマハブランズショップ横浜3階

開6:30~8:00 1,000円(お茶つき)

お申し込みは上記の栗原(15回)迄

—Fグループ主催演奏会

出演者募集のお知らせ—

Fグループでは下記の要領で演奏会を予定しております。出演希望される方は、申し込み用紙をお送り致しますのでご連絡下さい。上記の栗原(15回)迄

演奏予定日 1991年6月頃

会 場 神奈川県民小ホール(予定)

券 の 負 担 1人100枚程度(1枚2,000円)

人 数 2~3人

申込み締切 1990年11月20日

尚、出演者はFグループ会員で先生の推薦のある方に限ります。希望者多数の場合は書類選考させていただきますので、ご了承下さいませ。